草苑保育専門学校 学校関係者評価委員会 報告書

日　時：2025 年 3 月 5 日(火)13:00～14:30
場　所：草苑保育専門学校 大会議室
出席者：保護者からの委員
学校運営有識者からの委員
地元法人・業界関係者からの委員
地域住民からの委員
阿江美知代 自己評価作成責任者／草苑学園理事／草苑保育専門学校学校長
竹原有基 草苑学園評議員／草苑保育専門学校教務部長
欠席者：なし

議　事
【学校からの報告と資料説明】
自己評価報告書対象期間：2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日
「専修学校における学校評価ガイドライン」（文部科学省）にしたがって自己点検・自己評価を実施したもの。2023 年度の自己評価報告書について、以下の観点から報告・説明がなされた。

1. 本校の教育の理念・目標・育成する人材像
キリスト教の精神を基盤とした教育理念が明確に表現されており、年間主題聖句の活用も定着している。即戦力となる人材の育成という目標に向けて、教育活動全体が一貫して進められていることが評価された。
〈2023 年度年間主題聖句〉
「これらの小さな者を一人でも軽んじないように気をつけなさい」
（マタイによる福音書 18 章 10 節 a）

2. 学校運営
昨年度に引き続き、各部門の運営方針が整理されており、特に保育士養成コース開設に向けた準備が着実に進んでいる点が評価された。今後は事業計画の中長期的視点での体系化と、PDCA サイクルの実効性強化が求められる。私学法改正対応、人材育成、情報システムの全学統一が課題。

3. 教育活動
授業アンケート等による授業改善や、指導大学の教授にも委員として参画していただいている教育課程編成委員会を活用したカリキュラム設計など、継続的な教育の質向上が確認された。実習評価の標準化や、評価基準の明示に関する取組も進行中である。成績評価の客観性向上、オンライン授業体制の未整備などの指摘があった。

4. 学修成果
専門就職率 100％を維持しており、現場との接続における信頼性が高い。学生の自己効力感

や満足度の向上に向けて、1 年次からのキャリア意識形成の取り組みを強化することが望まれる。公務員の合格率・合格者数の高さ、大学への 3 年次編入への取り組み等が評価された。今後は、離職者防止へ卒業後フォローと現場フィードバックの強化が求められる。

5．学生支援

学生支援センターの定着と支援制度の活用が進んでいる。中退防止についても、早期対応と教職員連携の仕組みが整備されつつあり、今後は学生の多様な背景に対応する相談体制のさらなる充実が期待される。

6. 教育環境

校舎・設備の整備が計画的に行われており、ICT 環境の整備状況も改善が見られる。教職員の業務効率化と学生サービスの向上を両立させる視点が今後も求められる。次年度 70 周年を見据え、改修を行う具体像が示された。ラーニングコモンズ整備、専門書充実は引き続きの課題。

7. 学生の募集と受入れ

選考基準や日程の適正な運用が確認され、教職員が一体となった広報活動の継続が報告された。特に新設の保育士コースに向けた特色の明確化と、Instagram を中心としたメディアを活用した発信強化が課題として挙げられた。

8. 財務

定員充足に向けた努力と、教育目標に資する予算配分が確認された。教職員の予算意識の向上に加え、財務の透明性と説明責任の強化が重要である。次年度 70 周年に向けて、講堂大改修等の工事に必要な寄付募集を開始、クラウドファンディング等の準備も進められている。

9. 法令等の遵守

法令遵守は、精神においても実務においても確立されている。次年度は 2025 年私学法改正に伴う規程改訂を図る。

10. 社会貢献・地域貢献

地域との連携を重視した行事（草遊祭、園芸活動等）やボランティア活動が継続され、学生にとっても学びの機会となっている。現在の本校における教育の柱の一つとなっており、高い評価を受けた。

11. 討議

委員 A：新たに開設される「保育士コース」の準備状況について、具体的な取組や現場での反応を教えてほしい。

学校：2025 年度開設予定の「保育士コース」に向けて、2023 年度は科目編成やカリキュラムの整備を中心に、豊島区や東京都に相談しつつ準備を進めている。2023 年度中に東京都へ申請を行った。コース独自の魅力ある科目を開講するため、探究的な学びの導入や、学生自身が保育の意義を主体的に問い直

すような授業設計を行うべく、委員会を組織し、準備を始めた。また、教職員間ではカリキュラムのねらいと科目のつながりを共有する機会を増やし、保育現場のニーズに即した実践的教育への転換を進めている。現行コースにおいてもゼミを実施し、そのトライアルとしている。今後は近隣の保育系施設や実習科目との接続を工夫し、2 年間を通した成長を支援したいと考えている。
委員 B：次年度、70 周年として講堂の改修事業を計画中と聞いている。教育面での効果はどう考えるか。
学校：学園創立 70 周年記念事業の一環として講堂の大規模改修を行い、2024 年 9 月に新講堂が竣工する予定。木の温もりを活かしたデザインと最新の音響・照明設備を導入し、礼拝や演奏会、卒業式などで活用していく。地域にとってのプラットフォームのような意味合いのある場所を目指している。学生にとっても、音がよく響いて気持ちが引き締まるような、誇らしいと感じてもらえるような回収をイメージしている。教育活動へのモチベーションにも好影響を与えると考えている。
委員 C：中退者や学修不安を抱える学生への支援はどうか。
学校：2023 年度も、経済的支援や学習支援、心のケアを目的とした「学生支援センター」が中心となり、多面的な対応を行った。学修に不安を抱える学生に対しては、授業担当者と連携した補習的サポートや面談の機会を設けるとともに、教職員が適切に役割分担しながら関わる体制づくりを進めた。学生の状況を早期に把握するために、出席データや学期中アンケートをもとにしたフォローも実施している。退学者は依然としてゼロではなく高い数値にあるが、各部門での対応が組織的になってきたと実感している。

12. まとめ

本校の強みとしては、キリスト教の精神に根ざした一貫した教育理念、国家試験免除による資格取得体制、対面授業と行事を通じた実践的な学び、そして高い就職率が挙げられる。

一方で、改善点としては、保育士コース新設に伴う定員およびカリキュラムの再編、評価基準の客観化、ICT および図書環境の整備、退学防止策のさらなる強化が指摘された。

今後の重点課題としては、ラーニングコモンズの整備をはじめとする学修環境の充実、システム統合とデータ活用（IR）の推進、地域および卒業生との連携強化が求められる。

（閉会）

次回予定：2026 年 3 月頃